

2011年度

科目名	演習 I -2			
担当教員	鈴木 利一			
配当	日文3		コード	31024
開期	通年	講時	水曜日1限	単位数 4
授業テーマ	『土佐日記』を通して学ぶ日本古典文学研究法			
目的と概要	日本文学を研究するために必要な基礎知識及びその具体的方法を、『土佐日記』の輪読を通して修得します。講義中には、日本古典文学を取り巻く社会環境等も解説していくつもりです。			
成績評価法	講義への出席状況(40%)、課題の提出状況(40%)、課題に取り組む姿勢(20%)等を勘案し、総合的に判断します。			
テキスト	配布資料とプリントによって行います。			
参考書				
履修に当た ての注意・助言 /準備学習	受講準備にあたっては、現代語訳付きの原文テキストや注釈書類を一読しておくとう理解が深まります。受講後は、さらに詳細な語注や考察部分を含めて読破することをおすすめします。 講義参加の際には、他の担当者の発表にも強い関心を持って耳を傾け、他者から学ぶ姿勢を忘れないで下さい。 事前学習時の資料収集にあたっては、文献の所在を広範囲求め、それぞれの資料への効率的なアクセスが可能になるよう努力して下さい。受講後の再分析時には、工具書の利用法などを再検討してみてください。			
講義計画				
平安初期文学作品である『土佐日記』を各自が数行ずつ担当し、資料作成の上、輪読形式で研究発表を行います。この発表に伴う調査・討議を通して、日本古典文学研究に必要な基礎知識を養うのが目的です。また、資料収集法、使用工具書類の解説も随時行っていく予定です。さらに、資料収集の過程では、インターネット上の図書館・研究機関のサイトを利用することも必要になってきます。そうしたオンライン情報や電子データの取り扱いについても、機会のあるごとに解説し指導していく予定です。講義の予定は以下の通りです。				
1. 『土佐日記』概説と資料・調査方法等の解説<1～3回> 2. 資料調査収集実習<4～6回> 3. 輪読1（グループ調査による資料作成と発表）<7～14回> 4. 前期まとめ<15回> 5. 輪読2（個人調査による資料作成と発表）<16～18回> 6. 輪読3（個人調査による資料作成と発表）<19～21回> 7. 輪読4（個人調査による資料作成と発表）<22～24回> 8. 学術研究論文講読<25～26回> 9. 調査報告書作成法<27～29回> 10. まとめ<30回>				
※講義の一環として、博物館等で開催予定の特別展見学を行う予定です。				